

函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース

平成 20 年度収録作品概要

A 阿部かおり K 菊地圭子 S 柴村紀代 T 谷暎子

記述内容: 番号 雑誌名 巻号 発行年 冊数 備考

1 おとぎの世界 1巻1号～1巻3号 1919/4/1～1919/6/1 2冊 文光堂

創刊号は小川未明監修、初山田之助(滋)による表紙画。未明は童話と童謡の両作品を発表、公募童話の選者でもあった。井上猛一(後に岡本文弥)が編集にあたり、小森多慶子・鈴木善太郎・中村星湖・徳永寿美子・加藤一夫らが童話を、小林愛雄・正富汪洋・中谷徳太郎等が童謡を執筆している。昔話や外国作品の再話が多い。童謡選者は歌人の山村暮鳥。大正 11 年(1922 年)10 月廃刊。(K)

2 コドモのテキスト (第2年第4号)～第7年第1号 1929/3/25～1934/4/25 61冊

社団法人日本放送協会関東支部内コドモのテキスト編集部

ラジオの全国放送が始まった 1928 (昭和 3) 年 11 月に創刊。子供向けラジオ番組〈子供の時間〉の手引き書として発行された。年(巻)・号という表記はなく、初めの頃は「〇月放送」と発行年月日のみの表記のため、所蔵しているものも、年・号は推定のものがある。

表紙絵は斎藤五百枝、加藤まさをなどが担当した。(A)

3 コドモノ本 3巻3号～5巻8号 1933/3/1～1935/8/1 26冊

社団法人朝日新聞社会事業団 コドモノの本編集部

1931 (昭和 6) 年創刊で、朝日新聞社主催の子ども会「アサヒコドモノカイ」の機関誌として発行された。内容はアサヒコドモノカイの様子などのグラビア、童話、詩、科学読み物、父兄のページなどが掲載されている。(A)

4 科学と模型 4巻4号 1931/10/1 1冊 科学と模型社

昭和 5 年(1930 年)、大阪市西区にあった『科学と模型社』から創刊された青少年向けの月刊模型研究雑誌。副題に Science and Model とある。途中で出版社が『朝日屋』に変わるとともに巻号表記が通巻に変更され、昭和 27 年(1952 年)発行の通巻 202 号までが確認される。第 4 巻第 4 号(10 月号)は、夏休みに投稿された読者の研究成果を掲載する『秋季特別読者の研究号』であり、記事の半分は読者による模型製作の詳細報告になっている。(K)

5 私たちの科学 10号 1949/9/15 1冊 財団法人 北海道科学普及協会

財団法人・北海道科学普及協会は「国民の科学的教養を高め、国民生活を化学化すること」を課題 1946 年 3 月に発足。さまざまな事業を展開したが、1946 年 7 月に機関誌『新生科学』

を創刊、この中に「児童の科学」の頁が設けられている。1948年6月には児童を対象に『私たちの科学』を創刊、終刊は不明だが10号・1949年9月号まで確認できた。

B5判16頁の未綴の雑誌で、誌面は科学読み物、科学者の伝記、科学探訪、科学遊び、質問欄などで構成。まら子どもたちの自由研究を奨励し、応募作品を毎号掲載している。(K)

6 小学生 3巻7号～8巻5号 1913/10/1～1918/5/1 19冊 文教社

1911年3月の創刊で同文館発行の月刊誌。2巻10号から文教社の発行になる。1918年5月号まで確認できたが終刊年月は不明。表紙には賜台覧とある。歴史、立志、勇猛、善悪、教訓、滑稽、怪奇などを冠した小説、歴史、地理、科学などの学習の頁、修学旅行地の紹介などの他、綴方、和歌、俳句、図画、書方などの投稿欄もある。竹久夢二、伊藤深水らが表紙、口絵を描き、芦屋芦村、山内秋生、佐々木邦、吉屋信子らが寄稿している。(T)

7 少女画報 1巻1号～21巻11号 1912/1/1～1932/11/1 46冊 東京社

『婦人画報』の姉妹誌。高島平三郎、倉橋惣三が編集顧問となり月刊誌で出発。良妻賢母の育成を目指した実用的な内容。高橋我川・和田古江等が編集を担当し、読みもの・数学・時事記事からなる。毎号巻頭に多くのグラビアを配して日本各地あるいは海外の情報を提供、また写真小説の形態を取り入れている。執筆者には尾島菊子・三津木春影・野上弥生子・与謝野晶子らがいる。竹久夢二は童謡のほかに挿絵を担当している。昭和17年(1942年)、『少女の友』に合併される。(K)

8 少女界 1巻1号～12巻11号 1902/4/11～1913/11/1 58冊 金港堂書籍株式会社

同年2月に創刊された『少年界』に対する月刊雑誌。少女向け雑誌の先駆誌。《女子の務め・婦女子の心掛け》を奨励した修養談を掲載。当初は御伽談・詩・理科や地理歴史に関する学術記事・唱歌・雑録・投稿作文等からなった。やがて投稿欄を設け、和歌・俳句・少女日記・短文を募集。途中から編集主任になった神谷鶴伴は懸賞詩の選評も担当している。第10巻第11号から発行所が大洋社に変わる。その他の執筆者には、山田美妙・下田歌子・友田宜剛・卜部観象・尾島菊子・河崎醉雨がいた。(K)

9 新少女 1巻1号～5巻1号 1915/4/1～1919/4/1 16冊 婦人之友社

「子供之友」の姉妹誌。主幹羽仁もと子、編集長河井醉茗。終刊は1919年12月。全57冊。創刊号から与謝野晶子、村山元子、窪田空穂らが執筆。ポンチの北澤楽天や表紙・挿絵に竹久夢二が活躍した。第3巻12号には素木しづの少女小説「吹雪の日」が載っている。(S)

10 童話 2巻8号～7巻6号 1921/8/1～1926/6/1 10冊 コドモ社

編集者は千葉省三。『赤い鳥』『金の船』と共に大正時代を代表する三大児童雑誌の一つ。童話と童謡を軸に童話作家の作品発表の場であった。川上四郎による表紙を捲ると、執筆者には島崎藤村・有島武郎・田山花袋・宇野浩二・武者小路実篤など数多くの文壇作家から、童謡作家として西条八十・島木赤彦、児童劇作家では北村寿夫・小山内薫がいる。後に『郷土童話』と呼ばれる千葉の作品はここに掲載された。小川未明や水谷まさる・楠山正夫・小寺菊子が童

話を執筆し、投稿者には、金子みすゞ・片平庸人・島田忠夫・関英雄等が、読者の欄には後の映画評論家・淀川長治の名前もある。読者欄では読者によって意見交換が活発に行われ、雑誌当初の目的である読者と編集者側との交流も盛んであった。大正 15 年(1926 年)7 月号を最後に休刊。(K)

11 北國少年 創刊号 1923/2/1 北海小学社 1冊

小学生対象の雑誌で、札幌の北海小学社（札幌）が創刊、いつまで続いたかは不明。編集者は武田清滴。創刊号は 37 頁で、清滴の少年小説、童話の他、小学野球界の話などを掲載。子どもたちの綴方、童謡、和歌、自由画、書き方などの発表にも力をいれていて、入選作品を掲載。入選者から、読者が札幌だけでなく小樽、釧路、寿都などにいたことがわかる。(?)

12 幼年画報 10巻14号～30巻12号 1915/11/1～1935/12/1 20冊 博文館

1906（明治 39）年 1 月創刊の絵雑誌。月刊に加え年 4 回の定期増刊が発行された。絵と読み物を兼ねたカラーページで構成されている。絵は武内桂舟、安田靱彦、本田庄太郎などによる。その季節に合わせた行事や事柄が多く掲載されている。所蔵されている 1935（昭和 10）年 12 月号が最終号とされる。(A)

13 幼年倶楽部 1巻12号～18巻9号 1926/12/1～1943/9/1 24冊

大日本雄辯会講談社

1926（大正 15）年 1 月、既刊の「少年倶楽部」「少女倶楽部」に加え、小学校低学年を読者対象に発行された。当時の幼年雑誌は、“読み物中心”と絵が中心“のものに分かれていたため、その両方を兼ねることを編集方針とした。主な作家には、巖谷小波、吉川英治、北川千代ら、画家に河目悌二、岡本帰一らがいる。戦時統制により一時休刊したが、復刊し、石森延男、伊藤整らが執筆。漫画などで人気を集めたが、1958（昭和 33）年 3 月号で終刊した。(A)

14 幼年雑誌 2巻15号、号外 1892/8/1～1894/11/30 2冊 博文館

1891（明治 24）年 1 月創刊。1894 年 12 月終刊。「少年世界」に吸収合併された。全 96 冊。幼年といっても小学校中・高学年以上が読者対象。所蔵する 2 冊のうち 1892 年 8 月号には佐々木信綱の新体詩の他、明治美談「児童の模範」や日本武勇鑑「畠山重忠」など忠孝の話が中心。もう 1 冊は日清戦争直後「征清畫談」と題された号外号。「征清軍記」が巻頭 40 頁を飾り、軍人の活躍や遺書が紹介されている。(S)

15 幼年世界 3巻5号～3巻12号 1913/5/1～1913/12/1 6冊 博文館

第 1 次、1900（明治 33）年 1 月～12 月。第 2 次、1911（明治 44）年 1 月～1923（大正 12）年 10 月。全 154 冊。所蔵する 6 冊は第 2 次のもの。巻頭に巖谷小波の御伽噺が載り、幼年絵噺、幼年ポンチなど小学校低・中学年を対象とした内容。活字も大きく読みやすい。挿絵に杉浦非水、竹久夢二が活躍し、弱年層の購読に寄与した。(S)

合計冊数 293 冊